

## ISO 審議状況の要点（2009年7月14日から2010年6月1日までの変遷）

### （1）大気専門委員会（TC146）

#### ●固定発生源（SC1）

- ・排ガス中の TVOC の分析法（NDIR）が検討されています。
- ・放射性炭素の分析により、バイオマス起源と化石燃料起源の CO<sub>2</sub> の比率を求める方法が検討されています。
- ・温室効果ガスに関し、自動測定の校正法や品質管理について検討が開始されました。
- ・カスケードインパクトによる排ガス中の PM<sub>10</sub>/PM<sub>2.5</sub> の測定法が発行されました。

#### ●作業環境（SC2）

- ・携帯サンプリング装置の性能と試験方法が検討され始めました。
- ・イオンクロマト法による無機酸の定量法が発行されました。
- ・吸入性結晶質シリカの測定の手引きが発行されました。

#### ●周囲空気（SC3）

- ・市販のバルク材におけるアスベストのサンプリングと定性分析が検討されています。

#### ●室内環境（SC6）

- ・SEM による表層の繊維状粉じんの定量法が検討され始めました。
- ・VOC デテクターの試験方法が検討され始めました。
- ・室内空気の官能試験が検討され始めました。
- ・ホルムアルデヒドの吸収性建築資材の性能試験方法が発行されました。
- ・VOC の吸収性建築資材の性能試験方法が発行されました。

### （2）水質専門委員会（TC147）

#### ●事務局管轄の規格・プロジェクト

- ・トリチウム等の放射能測定のための液体シンチレーション係数法が検討されています。
- ・ラドン 222 と短寿命崩壊生成物の放射能測定に関し、下記の 3 項目が検討され始めました。
  - ・ラドンの発生由来と測定法
  - ・ $\gamma$  線スペクトロメトリによる直接測定法
  - ・脱ガスによる間接測定法
- ・薄厚源直接堆積法による非塩水中の総  $\alpha$  線、総  $\beta$  線の放射能測定法が発行され

ました。

#### ●物理的・化学的・生物的方法 (SC2)

- ・ 離散解析システムと分光光度検出器によるアンモニア等の分析法が検討され始めました。
- ・ タンデム質量検出器付き HPLC によるグリホセートと AMPA の定量法が検討され始めました。
- ・ HG-AFS や HG-AAS によるヒ素の定量法が検討されています。
- ・ HG-AFS や HG-AAS によるセレンの定量法が検討されています。
- ・ HG-AFS や HG-AAS によるアンチモンの定量法が検討されています。
- ・ 固相抽出ー誘導体化による選択アルキルフェノールの定量法が発行されました。
- ・ 固相マイクロ抽出による殺虫成分等の分析法が発行されました。
- ・ フロー分析法による全窒素の分析法が発行されました。

#### ●微生物学的方法 (SC4)

- ・ メンブレンフィルター法による大腸菌の検出・計数法が検討されています。
- ・ 複数管法による大腸菌群等の検出・計数法が検討され始めました。
- ・ メンブレンフィルター法によるウェルシュ菌の検出と定量法が検討され始めました。

#### ●生物学的方法 (SC5)

- ・ 大ミジンコ類の遊泳阻害の測定法が検討されています。
- ・ 淡水水域の生物学的分類において、生物学的クラス間の境界設定の手順に関する指針が検討されています。
- ・ 甲殻亜門貝虫網への慢性毒性値の測定法が検討されています。
- ・ 甲殻類等の急性毒性の定量法が検討されています。
- ・ オオフサモに対する土壌の毒性効果などが検討され始めています。
- ・ 軟質海底における大型動物相のサンプリングに関する指針が検討され始めています。

#### ●サンプリング (SC6)

- ・ スラッジ及び沈積物試料の保存と取扱いの指針が発行されました。